

2020/11/30

(うと Q 世話し 行く先知らず、で書き始め「事実はまだで正反対」のお話)

最後にどういう結末になるか分かりませんが、思いついたことを二つ書き進めてみたいと思います。

我々人間の歴史が多寡だか百万年未満。ゴキブリ君が 3 億年。一方ウィルス君は何億年前から。

かたや、こんな言い方もありました。

「百数十年、変わらぬ老舗の味」

長年のこっているものは「不動である」という見方。

しかし、自分はこのに対して少し違った見解を持ち始めております。

それは

「変化に適応してきたからこそ生き残ってきた」

言い換えれば

「変化に適応してこまめに変化(ウィルスなら変異、老舗なら軌道修正又は改善改良)し続けてきたからこそ生き残り、その姿が不動に見えているだけ」

なのだと。

今少し映像的に申し上げますと

状況が右に 30 センチ動いた時に、それに合わせて自分も右に 30 センチ動けば、それは等しい移動距離なので、自分から状況を見ても、周りからその二者の動きを見ても、それは止まって見える筈です。

反対に状況が 20 センチ左に動いたのに、自分が動かなかつたら、自分からは、状況は移動しているようにみえますし、周りもその差違に気づきます。

つまり、いささかややこしい言い方になりますが

「不動に見えるものは、実は反対に動(変化継続)であり、むしろ変動に見えるのは自分が変化しなくなっている(動かなくなっている)からで、実態実相は我々に見えるのとは、まるで反対の事実なのだ」

という事です。

コロナ禍で「激変だ」と騒いでいるのは、その観点からすれば「我々が止まったままでいる」即ち

「我々は未だ旧来のノーマルの中から抜け出せず、以前のままのものの方の見方や行動や価値観の中に鎮座増し増しているだけである」という事でしかない、と感じておる次第であります。

我々は、常にこちら側も変化をしなくてはならないのだ、という認識切り替えを可及的速やかに行き、状況(変化)が止まって見えるようになる迄、可能な限り適合適応の努力をし続なくてはならないという事なのかもしれない。

という結末に相成りました。

ややこし恣意お話で申し訳ありませんでした。